



川湯の森 マップ

中央エリアは次ページ

森の動物 (AR体験)

バードカービング

森の解説

木々に潜む鳥たちを見つけよう!

動物たちと写真を撮ろう!

大きなくまがお出迎え!

入口

出口

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 エゾヒグマ A 24 25 103 102 26 27 104 105 106 30 31 32 33 34 35 36

川湯の森 マップ

中央
エリア



木と葉っぱ

ようこそ『図鑑の森』へ！

こんにちは、川湯ナイトミュージアム『図鑑の森』へようこそ！ここは、阿寒摩周国立公園の中にある「川湯の森」です。ここにはアカエゾマツの原生的な森をはじめとする北海道ならではの様々な樹々や植物が自生し、鳥や動物が暮らしています。この「川湯の森ナイトミュージアム」は、実際の森を歩きながら、植物や鳥のことを楽しく知ることができる『図鑑の森』なのです。さあ、スマートフォンを手に、イヤフォンがあればセットして、楽しく『図鑑の森』の探検に出かけましょう。スマートフォンの無い方は、マップに解説があるので見てくださいね！



川湯の森は、硫黄山と摩周岳の噴出により火山灰の降り積もった大きな大地で地熱もあり厳しい環境です。だからこそ、少ない栄養分でも生きていけるたくましいアカエゾマツが一斉林（純林）をつくっている森なのです。エコミュージアムセンターの裏に純林が広がっています。



葉の直径が最大1.5メートルにもなるという大きなフキ。冬には枯れてしまいますが、春になるとまた大きな葉っぱが出てきます。コロボックルが葉の下に住むというお話、聞いたことがありますか？

アカエゾマツの林



アカエゾマツは成長が遅く木目が詰まっているので楽器作りに使われます。ピアノの響板や鍵盤、ヴァイオリンの甲板などに使われています。



ミズナラは高さ35m以上にもなる落葉広葉樹。ここ川湯の森には、高さ30mを超えるミズナラが多数あり、多くの鳥や虫たちを育んでいるのです。



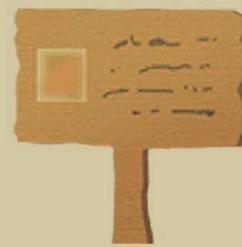
森の樹木には、たくさん光が無いと生きられない「陽樹」と、少しの光で成長できる「陰樹」があります。アカエゾマツやトドマツは陰樹の代表選手。豊かな緑陰の川湯の森では、高木の下で成長する針葉樹の子供たちを沢山観察できますね。



森は木々があつまることで、高周波の音を遮るといわれます。また、森の香りの成分であるフィトンチッドは、殺菌力があり心を静める効果があると日々研究されています。

AR体験方法

- ① パネルのQRコードを読み込みましょう



- ② 赤い四角の後に立ちましょう



- ③ 赤い丸にスマートフォンをかざしましょう



フリー Wi-Fi をご利用いただけます。

端末の設定画面でSSID「.Hokkaido01_Free_Wi-Fi」を選択し、端末でブラウザを起動し、設定を行ってください

森の樹々の形



庭木の世界では、一本の幹の根元から複数の幹が出ているものを「株立ち」と呼び、野山の趣があり人気があります。川湯の森の「株立ちハウチワカエデ」はまさに自然の森らしいカエデ。庭木ほしい人が沢山いらっしゃいますが、国立公園の森で大切に守られています。名月かえでとも呼ばれます。

ハウチワカエデ



同じカエデと名がつくもの同士でも葉の形は異なります。となりのイタヤカエデの葉っぱと見比べてみましょう。葉の周辺がギザギザしているのがハウチワカエデ。イタヤカエデは切れ込みが浅くてギザギザも少ないですね。紅葉の色の違いも観察してみましょう。

イタヤカエデ



世界には150～200種類のカエデがあるといわれております。ほとんどが北半球に分布します。カナダのサトウカエデはその樹液から「メープルシロップ」がつくられており、日本ではイタヤカエデの樹液からメープルシロップをつくることができます。美味しいメープルシロップはカエデの樹液でできています。

ミズナラ



大きな丸みのあるギザギザの葉が特徴のミズナラには秋にはドングリが実ります。ミズナラのドングリはアクが抜きにくく今は食用ではありませんが昔は食べたそうです。紅葉した葉っぱやドングリを集めて歩くのも森の楽しみ方ですね。

アカエゾマツ



アカエゾマツの幹をよく見てみると、樹皮が大きなうろこ状になっているのがわかると思います。それに比べてトドマツはツルっとしてなめらかで横縞があるように見えます。斜め向かいにトドマツがあるので比べてみてください。

トドマツ



トドマツはモミの仲間で、アカエゾマツとエゾマツはトウヒの仲間です。トドマツの枝はクリスマスツリーのように上に向かっていますが、アカエゾマツとエゾマツは下に向いています。葉はアカエゾマツが短くて細い塊ですが、トドマツは長くてふんわりしています。

ヤマモミジ



日本全国の庭木としてポピュラーなイロハモミジより一回り大きくて山に生えるものがヤマモミジ。どちらも深く葉が9つに分かれ手のひらのような形ですが大きさが異なります。ハウチワカエデとの違いも分かりやすいですね。

コシアブラ



10m以上にもなる高木のコシアブラですが、春先の山菜として「新芽」をてんぷらやおひたしにして食べます。川湯の森には貴重なコシアブラがあちらこちらに生えていますが山菜取りには来ないでくださいね。観察はOKです！

紅葉の秘密



16

葉っぱの中の緑の成分クロロフィルが分解されてカロチノイドの黄色が残った状態が黄葉です。さらに急激に温度がさがることで、わずかに残っていたクロロフィルが糖をつくりだし、それがアントシアニン（赤・紫・青の成分）をつくりだすことで、紅葉するといわれています。

紅葉の条件



17

急激に気温が下がり、最低気温が5度以下の日が続くと良いといわれています。また、土壤が酸性だと真っ赤になるともいわれています。日光が良く当たり適度な湿度も重要な要素なので、川湯の森はまさにぴったりですね。

ヤマドリゼンマイ



18

ヤマドリゼンマイは寒冷地の湿地に生える大柄なシダ植物ですが、ゼンマイとは別種です。でも、新しい葉は食べられます。川湯の森や屈斜路湖畔の湿地では、春にはこのヤマドリゼンマイや水芭蕉がみずみずしい緑として広がります。

ジャパニーズオーク



19

北海道のミズナラはジャパニーズ・オークと呼ばれ、世界的に素晴らしい木材だと評価されています。近年世界的なブームとなっているジャパニーズウイスキーはミズナラの樽で仕込まれています。弟子屈町の近くの厚岸町にある厚岸蒸留所でもミズナラ樽が使われているそうです。

ヤマウルシ



20

他の植物より一足先に紅葉する真っ赤なヤマウルシは森でひときわ目立つ存在。でも、樹液にふれるとかぶれるので絶対触らないでくださいね。特に春先は要注意。

苔



21

森にはたくさんの苔があります。苔にはスギゴケやゼニゴケなどたくさんの種類があって、よく見ると小さな森が広がっているようです。川湯の森の遊歩道は、木材のチップを敷き詰めた道なのですが、長い年月で苔に覆われ、ふかふかと歩きやすいですね。

川湯の森の紅葉



22

川湯の森のまわりには、帽子山やポンポン山など紅葉の素晴らしい山が多数あります。硫黄山の上から眺める山々の紅葉も絶景です。とはいって、広葉樹の山々はクマの住む森。ネイチャーガイドに案内してもらうのがおすすめです。山を知り尽くしているので安全ですし、きっとガイドブックには載らない特別な秋の絶景に出会わせてくれます。

森の生まれ変わり



30

切り株から新たな木が成長していくことを、森では「樹木更新・萌芽更新」と呼びます。このアカエゾマツの切り株からは「ウダイカンバ」の芽が出てきます。ウダイカンバはシラカンバの仲間ですが高級家具に使われる落葉広葉樹です。切り株からは同じ樹種の芽ができる場合が多く、その芽は「ひこばえ」と呼ばれます。切り株も生きていって後輩たちを育てていくんですね。

ヤマウルシ



31

真っ赤に染まったヤマウルシは、秋の森のヒロインです。漆器に利用されるウルシとは異なる木で高さも3m程度の華奢なヤマウルシですが、ウルシと同じ「ウルシオール」という成分を持つので触るとかぶれてしまうのでご用心。見て楽しむだけにしてさわらないでくださいね。

ノリウツギ



32

アジサイの仲間で夏には白く華やかな花を咲かせます。北海道ではサビタと呼ばれ、樹皮はサビタ糊の原料で高級紙づくりに使われたとのことです。ここでのノリウツギは川湯の森にやってくるエゾシカたちに食べられてしましました。足湯の背面にもたくさん自生しているので、そちらでも観察してみてくださいね。

アカエゾマツの幼木



33

アカエゾマツやトドマツは暗い森でも育つ陰性高木です。森はその成長の過程でシラカンバやハウチワカエデのような陽性高木の森から最後は暗い森でも世代交代を重ねられる陰性高木の森に変わっていきます。

ハウチワカエデ



34

モミジもカエデも実は同じカエデの仲間なのですが、葉っぱの形の違いで呼び名が異なります。カエルの手のようだからカエデなのですが、ハウチワカエデの葉は、まさに大きな蛙の手のようです。

オオバボダイジュ



35

大きなハート形の葉をもつオオバボダイジュはシナノキの仲間。お釣りを悟りを開いた木とされるボダイジュと葉の形が似ているのでこの名がありますが、全く別種の木です。

ヤマブドウ



36

ヤマブドウは日本固有の野生種で、果実はジャムやワインに使われます。ポリフェノールは普通のブドウの3倍とも言われ、様々な薬効があることが注目されています。また蔓を使った籠バッグは昔から現代まで沢山の人々に愛されています。アイヌの人々は、蔓でつくったストゥケリという草履をはいていました。ヤマブドウって色々な使い道があるのですね。もし、葉っぱが落ちてしまっていたら、たわわに実ったヤマブドウを想像してみてください！

シラカンバ



23

高原の樹といえば白樺。正式な和名はシラカンバです。白くて光沢のある樹皮が特徴で高さ30mにもなる高木です。でも寿命は70年ほどでクスノキやケヤキが1000年以上になることを考えると案外短命ですね。

森の宮み



24

森には自然の循環があります。強い風や雪によって、時に樹々は倒れてしまいます。でも、そのおかげで森には太陽が差し込み、新たな木々が芽吹くのです。ですので国立公園では、そういった倒れた木々をそのままの姿とするのです。また時に応じて観察できるように、安全な範囲でそのままの姿を残しておきます。ここでは、倒れたアカエゾマツとシラカンバが観察できますよ！

たくましい森のいのち



25

倒れたミズナラの根元が大きく盛り上がっています。樹々は雪や風でたとえ倒れても、根が続く限り空へ向かってのびていきます。困難があつても立ち向かっていく、森の樹々から私たちはたくさんのこと学ぶことができますね。

イヌエンジュ



26

明るい場所を好み10mくらいになる木です。樹皮には丸い斑点があり、ひし形にめくれたりしてわかりやすいです。葉や花にも特徴があるのですが落葉なので葉が落ちるとわかりづらいですね。アイヌ語でチクペニと呼ばれ、独特の香りが魔除けになるとして家の骨組や墓標、ニボボという魔除け人形などの様々なアイヌ彫刻にも使用されています。

シラカンバ



27

シラカンバの仲間にダケカンバがあります。シラカンバよりもさらに高地に自生している樹種で、場所や環境に応じて樹形を変化させます。見分け方は、幹が白くて枝が黒っぽいものがシラカンバ、枝まですべて白いものがダケカンバです。

アカエゾマツの根



28

地面から露出している根を「根上がり」と呼びます。根上がりは、街路樹では水分や養分の不足や、倒木から芽吹いた木が成長し元の倒木が腐食して無くなるなどの理由からおこります。このアカエゾマツは、土が水によって浸食を受け削られて根が露出したと思われます。植物の生きるエネルギーは素晴らしいですね。

ハクサンシャクナゲ



29

夏に美しい白い花を咲かせるハクサンシャクナゲは、針葉樹林の森に咲く花の代表選手。寒い冬には、葉を裏側に巻き込み筒状にすることで、表面積を減らし厳寒期をのり越えます。春になると葉を再び開いて光合成を再開します。寒い地域での植物の知恵ですね。

樺の用途



37

ウダイカンバは、反りや狂いが少なく、木目も美しく硬度もあり加工性も高いので、高級家具や建具、楽器などに使われます。20m以上の高木になる落葉広葉樹です。

エゾヤマザクラ



38

エゾヤマザクラは、北海道に多く自生するヤマザクラで、日本の野生の桜の中で最も花の色が濃く、特に川湯の森のある道東地域ではより鮮やかに咲くといわれています。川湯の森のある弟子屈町の木は、町民のみんなに愛されているサクラです。

ミズナラのドングリ



39

ミズナラの大木にはたくさんのドングリが実ります。そのドングリを一度に5つも喉やくちばしにためて運び、貯蔵するのがカケス。カケスは集めたドングリを地面に1つ1つ埋めて貯蔵します。このドングリが芽をだしてミズナラの森がつくっていくそうです。カケスとミズナラはナイスパートナーなのです。

樹木のライトアップ



40

夜に樹木を照らすと昼間とはまた違った樹木の姿が見えます。木の大きさや葉の美しさをあらためて感じる機会をつくります。昔の光源は熱を持っていたので、木に負担をかけていましたが、現在ではわずかな電力で熱も持たないので、時間に配慮すれば木への負担はほとんどありません。

カツラ



41

30mにもなるカツラは、幹も太くなり、様々なものに木材として使用されます。加工性も良いので、能面などの彫刻や碁盤、家具や楽器など。アイヌの人たちはこの木で丸木船をつくっていたとのことです。

シラカンバの樹液



42

シラカンバの樹液には、白樺キシリトールが含まれています。白樺キシリトールは「歯にいいガム」など多くの食品に使われています。

ミヤコザサ



43

北海道の笹には、クマイザサ、チシマザサなどがありますが、この笹はミヤコザサです。ミヤコザサは枝分かれが少なく背が低いので、雪が積もって雪の下に隠れます。雪の下の方が温かいので、寒さが厳しい川湯の森のササの特徴ですね。

森の鳥たち

クマゲラ



101

全長 45cm、翼を広げると 66cm ほどになる、全身真っ黒の大型のキツツキです。オスは赤いベレー帽、メスは頭の後ろに赤い髪飾りをつけています。クチバシで大木や枯れ木に縦 15cm、横 10cm ほどの楕円形の大きな巣穴を幹に掘るので、直径が 70 cm 以上の大木が必要で本州では数がとても少なくなりました。ここ川湯の森にはクマゲラの巣穴がありますが気づきましたか？

ホシガラス



102

ホシガラスは、全身に白い斑点がたくさんあり、その模様が満天の星空に似ていることから、「星ガラス」と名付けられました。ハイマツなどの針葉樹の実を好みますが、ミズナラなどの落葉広葉樹の実も大好きで、秋には木の実を貯める性質があります。その木の実からまた芽がでてくるので、森を再生する鳥ともいわれます。

アカゲラ



103

黒・白・赤が特徴の中型のキツツキです。翼の近くの大きな白い斑と、黒い翼にある白い模様が特徴です。オスは頭の後ろが赤く、メスは赤くなく、赤い帽子を被っているのは子供です。木の中にいる昆虫や幼虫をたべます。川湯の森にも住んでいますよ。

シマフクロウ



104

シマフクロウは北海道東部でしかみられない貴重なフクロウで、全長 69 cm、翼を広げると約 180cm にもなる世界最大級のフクロウです。現在は、つがい 70 組、総数でも 165 羽が確認されているだけで、環境省では最も絶滅の危機にある鳥として絶滅危惧 1A 類に指定しています。魚類やカエルなどを主食とし、樹齢 300 年以上の広葉樹の大木の穴に巣をつくるのですが、そういった大木が減っており、現在はドラム缶ほどもある人工の巣箱を森に設置するなど様々な保護活動を行っています。一組のつがいの縄張りも広く、繊細なので人が近づくだけで繁殖しなくなることもあります。観察したり撮影したい場合は釧路動物園などの施設にしてくださいね。

ミヤマカケス



105

赤褐色の頭に、青・黒・白のつぎはぎ模様のある翼、目先は黒とカラフルなカケスは、ドングリを地面に貯蔵するので「森づくりの立役者」と呼ばれます。一度に 5 個のドングリを運ぶことができ、1 日に 300 個も土に埋めるという話です。川湯のミズナラの森とカケスはナイスパートナーなんですね。またカケスはモノマネの名人。他の鳥や猫、チェーンソーなどの機械音、人間の声もまねることができます。とっても賢い鳥なんです。

カワセミ



112

漢字で翡翠（ヒスイ）と書くカワセミは、渓流に生息する小さな鳥。小魚や水生昆虫、時にはザリガニなども食べます。オスはくちばしが黒いですぐにわかりますよ。繁殖期には、オスがメスに獲物をプレゼント。水中に潜るときは目からゴーグルのようなものをだして確実に獲物をしとめる名人です。おなかがオレンジで背中は光の加減で様々に輝くブルーです。

シマエナガ



113

体長 14 センチほどの小さな鳥で、北海道だけに生息するエナガの亜種がシマエナガです。普段は群れで行動しておりとてもすばしつこい鳥でなかなかカメラで撮影ができません。川湯の森では、温泉街の町中でも時折見ることができるので、ぜひ「雪の妖精」を見つけてみてくださいね。

ハクセキレイ



114

体長 21 センチ、体重約 30 グラム。白と黒のツートンカラー、小さくスマートな体型で長い尾を持ち、その細い尾を上下に良く振るのがハクセキレイの特徴です。エサは、トンボ、ユシリカやバッタなどの昆虫が主で、地面だけでなく空中で飛んでいる昆虫を食べることもあります。

カッコウ



115

「カッコウ、カッコウ」という鳴き声で有名なカッコウは、モズやオオヨシキリなど他の種類の鳥の巣に卵を産みます。孵化したカッコウのヒナは、他の卵やヒナを巣から落として自分だけ育てもらおうとします。このような繁殖方法を「托卵（たくらん）」といいます。

キビタキ



116

鮮やかな黄色の胸元と眉のように見える黄色の羽毛が愛らしい姿であり、美しい多様なさえずりが特徴のキビタキはバードウォッチャーが大好きな鳥。食事の方法もおもしろく、枝にとまって飛んでくる虫を捕獲します。英語名ではフライキッチャ―という種類の鳥の仲間です。

ウソ



117

山の針葉樹林で繁殖しますがひがし北海道では平地の林でも見られるウソ。口笛を吹くような鳴き声で、古語では口笛をオソといったところからウソという名になったといわれています。日本各地の天満宮で「ウソ替え」という神事がありそれに使う「木ウソ」は、この鳥がモティーフです。菅原道真が蜂に襲われた時に、ウソの大群が飛んできて助かったからだと。木ウソの喉元は赤ですが本物の喉元は淡い紅色です。

シマフクロウ



118

日本最大のフクロウであるシマフクロウは、アイヌ語では、コタンコロカムイ、村を守る神と呼ばれ、多くのカムイの中でも最も地位の高いカムイとされています。様々なアイヌの民話に登場し、人々を幸せにするコタンコロカムイは、その大きさや姿、希少性などから野鳥ファンはもちろん、多くの自然爱好者のあこがれの鳥です。豊かな自然がなければ生きられないシマフクロウは、北海道の自然の豊かさを象徴する存在なのです。

オジロワシ



106

オジロワシは羽を広げると 2 m 以上にもなるひがし北海道を代表する大型の猛禽類。主に魚を食べるので根室や知床など海岸沿線に多く生息・飛来しています。立派なくさび型の尾が白いのでオジロワシと呼ばれます。くちばしと目の周り、足は黄色、全身は茶色で、さらに大型のオオワシとの違いは、全身真っ黒で肩が白いのがオオワシです。猛禽類ですが、性格は穏やか、おとなになるのに 6 年もかかるので、生息数が減っている貴重な鳥です。アイヌ語では「オンネイ（老大な者）」、大きな翼を広げ堂々と飛翔する姿には貫録を感じます。

ハシブトガラス



107

ハシブトガラスは日本で最もよく見かけるカラス。もともとは森林に住んでいたのですが徐々に都市部へと生息域を広げてきました。雑食性で昆虫や木の実、動物の死骸などあらゆるものを探食し、安心できる木の上などで食べます。宮巣地は高い樹林を好みますが、最近では街路樹や電柱などでも巣するようになっています。ひがし北海道には、冬に越冬のためにハシブトガラスよりもさらに大きなワタリガラスもやってきます。

シジュウカラ



108

森から市街地にまで広く生息する身近な野鳥であるシジュウカラ。黒い頭には白い斑点があり、羽根は灰色がかかったグリーンのどから続くネクタイのような黒い線がチャームポイントです。オスのネクタイは太いので、オスとメスはすぐ見分けられます。地上に落ちた草木の種などをついぱんでいる姿がとても可愛いスズメくらいの大きさの鳥です。

ヤマガラ



109

オレンジ色のお腹に黒い帽子と黒いエリマキのヤマガラはとても賢い鳥です。江戸時代には「かるたとり」「輪ぬけ」などの曲芸を仕込んで盛んに披露させたそうで、昭和時代には「おみくじを引く鳥」として神社の境内などで人気者だったようです。曲芸を仕込むためにある種の鳥が飼育されてきた事例は世界的にも類をみないことがあります。でも、現在は鳥獣保護法によって野鳥は捕獲できないのでヤマガラをつかまえて芸を仕込むことは考えないでくださいね。

ミソサザイ



110

尾羽をたてた姿勢が特徴的なミソサザイは、日本で最も小さな鳥の一種。10 センチほど小さな体のわりに大きな美声で有名です。オスはなわばかりの中に複数の巣をつくってメスを誘います。家をいくつもつくって彼女を待ちますが、使うのは 1 つのこと。名前の由来は、お味噌みたいな茶色、みそかすほどに小さいなど諸説があります。

エゾオオアカゲラ



111

赤・黒・白が特徴のキツツキであるエゾオオアカゲラは体長 28 センチで、24 センチ程度のアカゲラよりは少し大きいです。アカゲラは肩羽に大きな白い斑点がありますが、黒い背中に白い大きな斑がないのがエゾオオアカゲラです。キツツキの仲間は、木に住む虫を食べると同時に、森の更新にも役立っているので「森の番人」と呼ばれています。

森の動物(AR)

エゾヒグマ (AR)



A

エゾヒグマは北海道に住むヒグマで、オスの大きな個体は体長 2.5m 体重 450kg にもなる日本で最大の哺乳類です。雑食性で、果実や草のほか、木の葉や木の実、樹皮・樹脂、昆虫や魚、ザリガニ、鳥や鳥の卵、小動物、農作物など何でも食べます。泳ぎがうまく本州まで泳いで渡った例があり、また若いあいだは木登りもします。アイヌの人々にとってヒグマはキムンカムイ（山の神）と言われ、神として崇められていました。イオマンテという伝統儀礼は、カムイを敬い、カムイである子熊の魂をカムイモシリという神の国へ送り出すもので、アイヌの人々が自然やクマと共に存してきた「精神性」を感じることができます。

キタキツネ (AR)



B

北海道の中でも特に川湯の森があるひがし北海道はキタキツネに出会うことが多い地域です。近年、観光地付近では観光客から餌をもらおうとするキタキツネが増えています。普段キツネの食べないお菓子やパンなどは、キツネの免疫力や生きる力を弱らせてしまう原因となっているので絶対与えないでくださいね。大きなしっぽと耳が愛らしいキタキツネですが、エキノコックスという寄生虫を持っているので、出会っても触ってはいけません。アイヌ語でチロンヌプと呼ばれる愛らしいキタキツネを見つけたら、遠くから素敵な写真を撮るのがおすすめです。

エゾシカ (AR)



C

川湯の森のあるひがし北海道では、車や列車での移動中にエゾシカの大きな群れや親子の群れなどに出会うことができます。本州の鹿よりも体格も大きくて立派な角をもち、お尻が真っ白なエゾシカの堂々とした姿を見ると感動します。以前は絶滅の危機もあった森の住人エゾシカですが、近年は増えすぎて衝突事故や農作物や牧草地被害など社会問題にもなっています。大きなエゾシカはたくさん食べるので、貴重な各地の固有の植物を食べつくしてしまうなどの自然の生態にも影響がでていますが、北海道だけに生息するエゾシカなので、様々な共存と保護の手法が模索されています。アイヌの人々の主食は鹿肉で、毛皮から内臓まで感謝をこめて利用されてきました。

エゾリス (AR)



D

北海道に生息するエゾリスは、本州にいるニホンリスよりも大きくて、体長は 22 cm から 27 cm くらいです。冬眠はせず冬も活動するので、冬には冬毛にかわります。冬毛は夏の 2 倍くらいなので、ふかふかになり、耳の上にも長い毛がはえてウサギのように耳が長く見えますね。しっぽの直径は真ん中あたりで 3 mm くらいと、とても細いのですが、長い毛をおわれているので、ふさふさの大きなしっぽに見えます。川湯の森では、アカエゾマツの森で、時々会うことができるんですよ。日本ハムファイターズのキャラクター「ポリーボラリス」もエゾリスですし、北海道ならではの可愛くて大切な仲間ですね。